

高山村放課後子ども教室【群馬県高山村】

～ふれあいを通して心豊かな子どもを育てる～

◆ 事業の目的・理念

- 放課後の子どもたちが安心安全に活動できる場を設け、様々な体験活動等を通して、心豊かで誰とでも仲良くできる子どもを育てることや、親や地域の人との絆を深めることを目的に、放課後子ども教室事業を実施する。

教室の実施場所

- 放課後教室は、高山小学校のプレイルーム、校庭、体育館
- 休日教室は、高山村いづき会館及び村内施設

教室の開催日

- 放課後教室は、毎週火曜日14:50～16:30 年間30回程度開催(冬季は15:55まで)
- 休日教室は、土・日曜日 9:00～12:00 年間6回程度開催(内容によって夕方まで)

参加対象者

- 放課後教室は、小学校1年生から6年生(全児童対象)
- 休日教室は、小学生および保護者

申込み手続きなど

- 放課後教室は、学校を通して募集案内を配布。1～3年生は保護者承諾の参加申込書を提出、受給された参加者連絡カードをもって参加する。4～6年生は事前の参加申込書は不要で、当日会場で受付をする。
- 休日教室は、募集案内を学校を通して配布。参加者は申込書を学校もしくは教育委員会へ提出する。
- 参加料は原則無料。放課後子ども教室事業の参加者傷害保険は、村予算で対応。(全児童加入)。休日教室は、内容によって材料費等の参加者負担あり。

参加実績

- **放課後教室**(平成19年度・30回実施)
 申込者：1年生(21人・48%・児童数44人)
 2年生(11人・24%・児童数45人)
 3年生(10人・29%・児童数34人)
 4年生以上自由参加(児童数126人)
 参加者：1～3年生(のべ493人/平均16人)
 4～6年生(のべ376人/平均13人)
 合計(のべ869人/平均29人)
- **休日教室**(平成19年度・7回実施)
 参加者：子ども(のべ138人/平均20人)
 大人(のべ41人/平均6人)



みんな元気いっぱい

活動内容

〈心豊かに〉「放課後教室」

- 絵本の読み聞かせや郷土かるた(高山かるた)遊び等を通して豊かな心情を育てる。
- 読み聞かせ…季節の出来事や行事に関する絵本の読み聞かせを毎回実施。
 - 高山かるた…かるたで遊びながらふるさとの自然や歴史の理解を深める。
 - 図書コーナー…子どもたちにすすめたい絵本を展示、子ども教室図書として貸出。
 - ふらりコーナー…自由に将棋・オセロ等のゲームや宿題・読書ができる机を常設。(放課後教室が始まる前や途中参加の高学年生の利用が多い)

〈誰とも仲良く〉「放課後教室」

- 身近なものを使って遊び道具を作り、学年を越えて遊ぶことで友達関係を広げる。
- 古新聞やチラシ等を使って…帽子、兜、刀、弓矢、しりとり絵、切り絵、紙とんぼ
 - 牛乳パックや古はがき等を使って…サッカーボール、ブーメラン、飛び出すへび
 - いろいろな材料を使って…お話たまご、お雛たまご、ブンブンごま、影絵、風船遊び
 - からだを使って…おにごっこ、どんジャンケン、たたかごっこ、なわとび

〈絆を深める〉「休日教室」

地域の人の協力を得て様々な体験活動を行う。

- 小野子山ハイキング(6月)
山岳部員や青少年育成推進員の協力で実施
- 水ロケット作り(8月)
理科教師や高校生ボランティアの協力で実施
- 炭焼き体験(10月)
林業・農業関係者や老人会員の協力で実施
- 高山かるた大会(11月)
子ども会育成会員やPTA会員の協力で実施
- 焼きもち作り(1月) ● カルメ焼き作り(2月)
食生活改善推進員や婦人会員の協力で実施
- 布草履作り(2月)
老人会員や文化協会員の協力で実施



大型紙芝居の読み聞かせ

コーディネーターや地域の方々などの参加

- **採用・募集**
 コーディネーター…地域と学校との協議により推薦・決定(学校支援やボランティアに協力的な方)
 安全管理員・ボランティア…放課後子ども教室だよりや村広報紙を使って募集。
 協力団体…運営委員会で検討し、協力・支援を依頼。
- **配置人数** コーディネーター2人 安全管理員4人 保護者ボランティア若干名
- **協力団体(おもに休日教室の指導や運営協力)**
 ならの木読書会、婦人会、老人会、若妻会、PTA、体育協会、文化協会、子ども会育成会、青少年健全育成推進員、食生活改善推進員、地区ボランティアおよび高山村役場

事業を実施して

- 参加した子どもたちは大勢で遊ぶ楽しさ、たくさんの友達ができる喜びを味わい、子ども教室を楽しみにしている子が多くなった。
- 学年を超えて遊ぶことで、高学年生が低学年生の面倒を見られるようになったり、低学年生が話をよく聞けるようになった。
- 身近なものを使って遊ぶことで、家でも遊び道具を作ったり、工夫して遊んだりする姿が見られるようになった。
- ボランティアや材料提供として協力したいという保護者が出てきた。安全面を考えるとより大勢のボランティアの協力が必要である。
- 放課後子ども教室だよりの発行や参加者・保護者アンケートの実施によって、よりよい子ども教室の運営に努める。